

## 第38回測量調査技術発表会 開催報告

開催日：2016年7月1日 10:00～17:30

会場：新宿区立四谷区民ホール

公益財団法人 日本測量調査技術協会の「測量調査技術発表会」は、会員企業の先端技術発表の場として毎年開催しており、本年度も新宿区立四谷区民ホールにて開催しました。第38回の本年は東京大学大学院 准教授 布施孝志氏による特別講演と技術発表 14 編及び 5 編の部会・WG 活動報告を行いました。また、優秀発表賞 3 編と優秀技術論文 3 編を表彰しました。

参加者数、発表内容、表彰等の詳細は次のとおりです。

### ■参加者数 412 名

(測量および設計 CPD 発行 331 名(参加)、測量 CPD 21 名(発表)、6 名(受賞))

### ■発表内容

|    | 発表タイトル                                                              | 所 属                      | 発表者           |
|----|---------------------------------------------------------------------|--------------------------|---------------|
| 1  | GIS を利用した資産台帳管理システムの活用                                              | 株式会社パスコ                  | 戸嶋 亮          |
| 2  | GIS の新しい画像統合フレームワークについて                                             | ESRI ジャパン株式会社            | 鈴木 茂雄         |
| 3  | 公開データを利活用した河川防災情報の配信における課題                                          | アジア航測株式会社                | 服部たえ子         |
| 4  | 高齢化社会での日常生活の移動利便性における三次元解析評価の試行                                     | アジア航測株式会社                | 村田 眞司         |
| 5  | 高精度スペクトルセンサによる新たな空間情報収集の取り組み～熱赤外センサによる野生動物の検出～                      | 中日本航空株式会社                | 田村 恵子         |
| 6  | ドローンによる光波測距儀の気象補正の検討                                                | 株式会社パスコ                  | 飯塚 恒太         |
| 7  | GNSS 水準測量がもたらす可能性                                                   | アジア航測株式会社                | 渡辺 利光         |
| 8  | 航空レーザ測深 (ALB) による河川・海岸線の計測事例紹介                                      | アジア航測株式会社                | 實村 昂士         |
| 9  | 無人ボート搭載型マルチビームソナーによる洪水時の河床形状連続測定実験について                              | 株式会社<br>ハイドロシステム開発       | 橘田 隆史         |
| 10 | 小型自動航行船を用いた写真測量による河川構造物の維持管理支援について                                  | 朝日航洋株式会社                 | 今井友桂子         |
| 11 | ポイントクラウドによる道路・構造物を対象とした維持管理支援                                       | 朝日航洋株式会社                 | 佐藤 崇倫         |
| 12 | どこでも3次元計測<br>～モバイルレーザ計測の応用活用事例～                                     | 中日本航空株式会社                | 西川 貴史         |
| 13 | 3次元モデル作成に対する点群データの活用                                                | 国際航業株式会社                 | 小澤 尚輝         |
| 14 | UAV を用いた3次元出来形計測と精度検証                                               | アジア航測株式会社                | 石田 大輔         |
| 15 | 【特別講演】インフラとしてのデータ整備と解析技術による利活用の展開～社会基盤情報学へ向けて                       | 東京大学大学院 准教授              | 布施 孝志         |
| 16 | 定期横断測量のための航空レーザ測量マニュアル(案)について                                       | 空中計測・マッピング部会<br>レーザWG    | 横尾 泰広         |
| 17 | ・MMS 積算ハンドブック<br>(公共測量積算ハンドブック記載)について<br>・MMS ガイドブック(平成28年6月完成)について | 空中計測・マッピング部会<br>MMS_WG   | 真田 将英         |
| 18 | 「スワス音響測深機を用いたダム貯水池深浅測量作業マニュアル(案)」について                               | 位置情報・応用計測部会<br>河川の深浅測量WG | 登井 紹公         |
| 19 | GIS 部会 活動概要と自主研究検討 2015<br>「位置情報・GIS 技術を用いた近未来サービス」                 | GIS 部会                   | 加賀谷仁秀<br>山浦 篤 |
| 20 | 「液化化判読のための空中写真による判読要領、判読チャート作成」                                     | 国土管理・コンサル部会<br>自主研究チーム   | 安田 岩夫         |

本発表会にもとづく論文等は本誌に掲載しています。

## ■表彰

### 1) 優秀発表賞

18名の審査員により、「1) プレゼンテーション内容に基づく技術内容、新規性、有用性、完成度、信頼性(40点満点)」「2) 発表の仕方、発表内容の分かりやすさ、発表資料の体裁、発表態度(30点満点)」計70点満点の採点により3名を選考し優秀発表賞として表彰しました。

| 所 属            | 発表者   |
|----------------|-------|
| 中日本航空株式会社      | 田村 恵子 |
| 株式会社ハイドロシステム開発 | 橘田 隆史 |
| アジア航測株式会社      | 石田 大輔 |

### 2) 優秀技術論文

先端測量技術 107号に掲載された論文から6つの視点(新規性、有用性、完成度、信頼性、論文の分かりやすさ、論文としての体裁)による審査により選考された優秀技術論文を、会長賞、奨励賞として表彰しました。

|     | 論文タイトル                                      | 所 属       | 執筆者   |
|-----|---------------------------------------------|-----------|-------|
| 会長賞 | 世界最小の航空レーザ測深機(ALB)による高密度計測と陸上計測の実験と利活用場面の想定 | アジア航測株式会社 | 大鋸 朋生 |
| 奨励賞 | 携帯型斜め写真撮影システム(PALS)による3次元災害地形把握             | 株式会社パスコ   | 川上 誠博 |
| 奨励賞 | 超小型モバイルレーザ計測装置のUAVへの適用                      | 中日本航空株式会社 | 高橋 弘  |



表彰者

## ■特別講演

「インフラとしてのデータ整備と解析技術による利活用の展開～社会基盤情報学へ向けて」社会基盤情報学、特に画像解析、地域交通分析等の応用に関する研究を専門とされる布施孝志准教授により、ビックデータ、ICT（情報通信技術）、3次元データをキーワードに、UAVの動向と将来の社会基盤情報学へ向けて、インフラとしてのデータ整備と解析技術による利活用についてご講演いただきました。



布施 孝志 准教授

## ■部会・WG活動報告

技術委員会の技術研究部会、WGからは、主に平成27年～平成28年の活動が報告されました。

空中計測・マッピング部会から、航空レーザ測量、平成28年3月に公共測量作業規程の準則に記載されたMMSに関する事例調査・積算調査などの新たな活用の可能性について、位置情報・応用計測部会からはスワス音響測量機を用いた作業マニュアル（案）について、GIS部会からは、将来実現、利用されるようなサービス・仕組みにとして「商店街の活性化を支援するサービス」「献立サービスを起点に“食”を巡る総合サービス」の2テーマが検討・創出されました。

また、国土管理・コンサル部会の自主研究チームからは「液状化判読要領」と「液状化判読チャート」等の作成について報告されました。

## ■その他

本年度は天候の崩れもなく午前午後とも多くの方にご来場いただきました。HPやSNSを活用した参加案内等により事前参加申し込み者も年々増加傾向となっており、一般来場者330名、発表者、審査員、スタッフ合わせ延べ412名の来場者数となりました。発表者14名のうち3名が女性技術者であることや、今回初となった技術普及部会女性副会長による司会など、業界内の女性の活躍も注目されました。

準備段階から運営等にわたり、多大なご協力をいただいた技術委員会に感謝申し上げますとともに、運営面、来場者対応等の見直し等、今後もご意見を伺いながら測量調査技術の高度化、普及等に寄与する発表会の開催を目指してまいります。

